

第20回 3D教育研究会 開催レポート —ダイジェスト—



日頃より、株式会社 KA 教育の教育活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。
ございます。

この度『第20回 3D 教育研究会』を開催することが出来ました。

「グループコミュニケーション模擬授業」と題し、順天中学校・高等学校の高谷 哲司先生による模擬授業が行われました。また、『3D 教育プログラムの実践報告』として2校の先生方による発表を頂きました。開催時のレポートを作成致しましたので是非とも周囲の先生方へご回覧頂ければ幸いです。

21 世紀を担う生徒達にとって、『3D 教育プログラム』が、少しでもお役に立てればと願う次第でございます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月吉日

株式会社 KA 教育
代表取締役 菊地 淳

第1部「講演会」

会長挨拶

3D教育研究会 会長挨拶 片倉 敦先生(順天中学校・高等学校 副校長)

「次期学習指導要領等について」



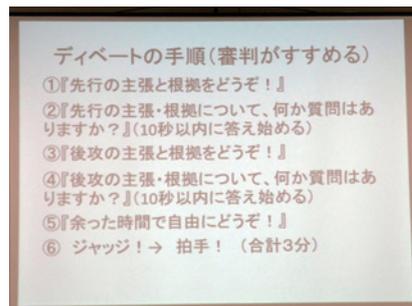
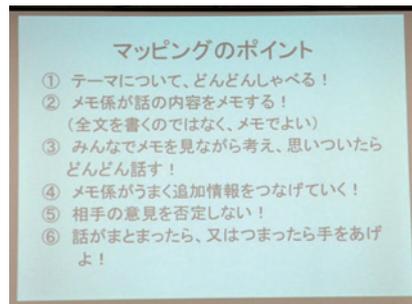
皆さまこんにちは。本日の講演の前に一言申し上げたいと思います。

「中教審答申」を踏まえ、今後は学ぶ内容だけではなく、『学び方』『教え方』を規定していこうという流れになっています。文科省が本気で改革しようという状況を知っていただきたいと思います。学習の指導内容は良いとしても、指導方法がある程度限定していこうという考えなのです。例えば学習指導方法のあり方『アクティブ・ラーニング』や評価方法のあり方等の審議、グローバル人材育成の為に英語の早期学習などです。

この『アクティブ・ラーニング』という言葉事態が一人歩きしている状態なのですが、様々な使い方があり、様々な授業の形態があります。では本当の『アクティブ・ラーニング』とは何なのか？これは、生徒を主体とさせるということが本来の考え方なのですが、少し違った意味合いで使用されていることも多々あります。そういった中で、この『アクティブ・ラーニング』というものは、我々が長年行ってきました『グループコミュニケーション』が基礎となっているということなのです。皆で討論をし、話し合いの中で相手の言うこともしっかりと聞いて、自分の意見をしっかりと発表できる、といった環境作りというのはとても大事であり、我々が一歩先に来ていると感じます。一歩先の我々がこういった研修を行っていくことにより、この先優位になっていくと思います。しかし、こういったことが始まってくると、これまで全く無関心だった学校が急に研修を始め、我々がサボっていると抜かれてしまう恐れも無きにしも在らずです。ですから、我々は常に先にこういった研修をしていくことが重要だと思っています。

また、今後の大学入試においても影響があると言えます。これまでのような1点刻みの点数で入試が決まるのではなく、その人の人間性や社会性、多様性、主体性、協働性等を見て判断されるようになります。そのようなことを知った上での授業改革をしなければ立ち遅れてしまうのではないかと感じます。本校では幸いなことに若手の先生方が積極的に授業改革を行っており、今日は本校より高谷先生に模擬授業を行っていただきます。授業において『グループコミュニケーション』を取り入れるとどうなるのだろうか？少しでも『アクティブ・ラーニング』のヒントになれば良いと思っています。

▼グループワーク・ペアワーク・ディバートの様子



本日は自分が授業で使用しているコミュニケーション方式の形式をいくつかロールプレイングさせていただきました。
もし、ご自分の授業において応用できるようなものがあれば持ち帰っていただき、何かプラスになれば嬉しいです。

先生ご自身が日頃より“授業においてどういう部分をポイントにしているのか”という解説がなされました。

日ごろの授業にいかす 生徒の言語活動を活発化させる 授業の実践例

順天中学高等学校 教諭
高谷 哲司

授業のポイント① 発問

1. 3種類の発問を使い分ける。

- ①オープンクエスチョン
- ②クローズド・クエスチョン
- ③セミ・クローズドクエスチョン

2. オープンクエスチョンとは？

- (1) 特定の答えが存在しない質問。
- (2) 例：最近どう？
あなたの将来の夢は？
あなただったらどうする？
あなたならどっち？理由は？
- (3) 長所：発問への参加率が個人単位で100%にできる。
- (4) 短所：知識の確認はできない。

オープンクエスチョンの実践例

- ①最近、うれしかったこと、または悲しかったこと、というタイトルでプレゼンしてください。
- ②あなたが将来なりたい職業は？
- ③正当化される戦争ってあると思う？
- ④もしもあなたなら、どっち？
A. 我慢できない！実力行使だ！
B. まだ話し合いを続けよう！
- ⑤**仮想設定**＋あなたならどうする？

3. クローズド・クエスチョン

- (1) 特定の答えが存在する質問。
YES/NOで答えが終わってしまう質問。
- (2) 例：平和主義を定めた条文は第何条？
統治行為論の定義は？
前回の授業の内容は何であったか？
- (3) 長所：知識を問うことができる。
短所：答えを知らない生徒は、発問に参加できなくなる。

4. セミクローズド・クエスチョン

- (1) 一般常識やこれまでの人生経験を手がかりに、答えに気付けたどりつけるような質問。
- (2) 例：経済活動の自由が制限される場合とはどのような場合だと思う？
貿易ってなぜ大事だと思う？
政治の定義って、何だと思う？
政治のあるべき姿はどのようなものだと思う？
この絵(グラフ)から読み取れることは何だと思う？
- (3) 長所：クローズドよりも、生徒の参加率が高まる。
短所：参加率は100%ではない。
- (4) 「**分かりません**」は**禁止ルール**とペアワークとセットで使うと有効

授業のポイント② ペアワーク・グループワーク

1. ペアワーク
 - ①着席型
 - ②起立型
2. グループワーク
 - ①ディスカッション型
 - ②ディベート型

ペアワークのポイント

- ① 時間設定・・・長すぎず、短すぎず
- ② 生徒が話しやすくなる発問形式を探る。
- ③ ()をすると、生徒が笑顔になる。
- ④ 共有の時間はテンポよく。

ディスカッションのポイント: マッピング

《マッピングのポイント》

1. 実物を見せる。
2. 目的の共有:
『マップを見ながら、一緒にすすむ』
3. グループづくりの工夫
→机は(4)個まで。
4. メモ係は2人決める。
5. 制限時間を決める。
6. 最初の一週目は、一人一人順番に。
7. 『終わった、またはつまったは挙手』

ディベートのポイント

1. 準備・・・賛成・反対両方の立場で意見を書く。
2. 3人一組で組む。→役割決め
3. ディベートを、『おしゃべり』にしないためには?
→(**ルール**)と(**目的**)を共有する。

意見をまとめる際のルール

- ① 自分の主張を書く。
- ② 根拠を書く。「なぜなら・・・」
- ③ 反論の引用 「たしかに・・・という意見もある」
- ④ 反論への反論 「しかし・・・」
- ⑤ まとめ

最後に

- ① 授業理念の大切さ
 - 《1》自分の意見を『育てる』
 - 《2》情報読解力・情報編集力をつける。
『こんにちは、私はニコライ・田中です』
 - 《3》正確な知識を身につける。
- ② 授業理念をいかに日ごろの授業に落としこむか??

このような形で、自分の中で伝えたいことを日頃の授業にどう落としこんでいくのか、というところで四苦八苦しながら行っていますが、これからも自分なりの取り組みを進めていこうと考えております。私の発表が何らかの形で皆さんのお役に立てれば良いと思っております。本日はご清聴ありがとうございました。

質疑応答

Q. 今日先生方が生徒役だったので問題なかったですが、日頃授業の中で生徒たちがペアワークあるいはグループワークに入る時、または戻す時に起こるロスを少なくする工夫などはあるのでしょうか？

鴫田 克彦先生(駒場学園高等学校)

A. 発音の仕方をテンポ良くするというのを心掛けています。発音する時のテンポ感やリズム感を大事にしています。例えばグループワークで机を移動する際に、ガラガラ動く生徒がいると良くないので、「今から机をチャットくっつけてください。」といいます。中学生も高校生も「チャット」の発音で素早く行動します。

Q. 先生の手法というのはどこから学んだものなのでしょうか？

先生が苦労して作り上げたものなのでしょうか？

石井 公一先生(立正大学附属立正中学校・高等学校)

A. 発音に関しては本校の英語の先生から学びました。その先生との校内の勉強会を行っていく中で学びました。またディベートにおけるマッピングなどは、大学時代の先生によるゼミで「今話したことをペアで話し合ってください」という場面が良くあり、これは使えるのではないかと思います。



3D 教育プログラムの実践報告①



長田 一郎先生・鴫田 克彦先生(駒場学園高等学校)
駒場学園高等学校の鴫田と申します。いつも 3D 教育研究会
ではお世話になっております。

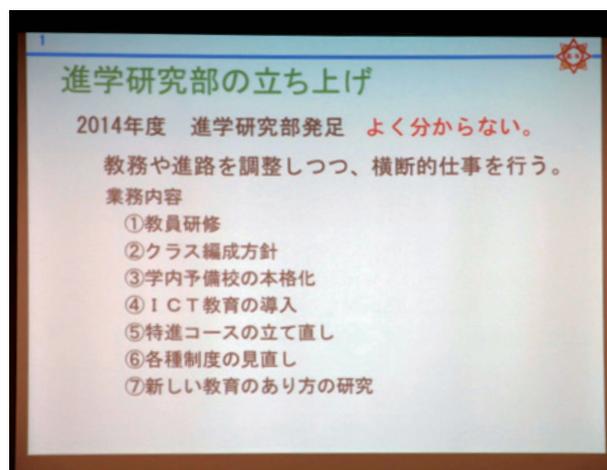
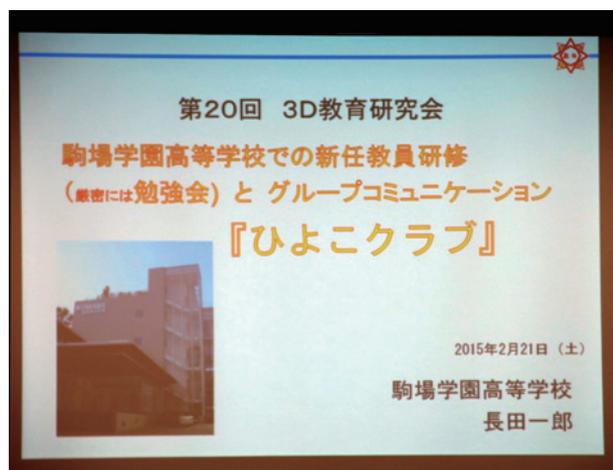
今回の発表は本校の長田先生が行います。学内でどのよう
な取り組みをしているのか、お手元の資料にありますように
『ひよこクラブ』という新人教員研修として、もっと経験を積
んで欲しい先生方をどのように導いていくのかといった内容
のものになります。

本日は宜しくおねがいします。長田と申します。

これから発表いたします『ひよこクラブ』というものは、今後本校で中核になって欲しいと思う先生方に何
か形になればという思いで始めました。

ご自身で作成された資料を基にプロジェクターを使用した発表がなされました。

本校では新たに『進学研究部』という部署を立ち上げ、今年度より担当することとなりました。この部署の
目的は『教務や進路を調整しつつ、横断的仕事を行う』ということです。



この『ひよこクラブ』という勉強会の中で皆がなるべく色々な
意見を言えたらと思います。

所謂“コミュニケーション”という言葉は浸透しておりますので、
あまりタームなどを必要としない、色々なことをお喋りしていく
中で信頼関係や絆が出来ていけば良いと感じます。この『ひよこ
クラブ』という組織はグループワークといえそうですし、そう
ではない場合もあります。今後行っていく上で、その効果の検証
もできればと考えております。



3D教育プログラムの実践報告②



松本 朗先生(東京学園高等学校)

東京学園高等学校の松本と申します。このような機会をいただきありがとうございます。本日は先生方ではなく生徒だと思って授業形式をとりますのでおつき合ください。

冒頭で全員に記入シートを配布し、以下の流れで授業が進められました。

自由に席を移動して5分間の情報交換



全ジャンルを揃えた生徒のチェック



生徒によるニュース発表

ジャンルの自由	項目	曜日	曜日	曜日
ジャンル	政治・経済・国際・スポーツ・芸能・事件(事故)といった6つのジャンルそれぞれの時事ニュースを記入するシート			
政治				
経済				
国際				
スポーツ				
芸能				
事件・事故				

政治・経済・国際・スポーツ・芸能・事件(事故)といった6つのジャンルそれぞれの時事ニュースを記入するシート



普段は高3の政治経済、高2の倫理、高1の現代社会・地理の授業の中にも取り入れています。授業の冒頭15分~20分程度で行います。

本校では月1回程度、グループコミュニケーションの授業を行っています。この研究会でも良く話を耳にするのですが、実践して良かったことは(一時的に)担任を変えるということです。普段の担任ではない他のクラスの先生が行うことで、生徒も新鮮な気持ちになり積極的に取り組んでいる印象があります。

アンケート集計結果報告

『各学校における3D教育プログラムの活用状況~教員研修の実施状況について~』



3D教育研究会 副会長 高野 淳一先生(東京学園高等学校 教頭)

以下の項目に関する集計結果の報告が行われました。

- 1.校内で教員研修を実施しているか?
- 2.校内研修を実施しない理由
- 3.校内研修の実施内容
- 4.実施してよかった研修・これから実施したい研修
- 5.校内研修に関して参考にしたい事例など
- 6.グループコミュニケーション教材に関するご意見、参考にしたい他校事例・テーマ等

参加者全員での記念撮影



2015.2.21 第20回 3D教育研究会 in 明治大学 紫紺館

出来る・大丈夫・大成功

3D教育研究会

2015.2.21 第20回 3D教育研究会 in 明治大学 紫紺館

株式会社KA教育

〒173-0012
東京都板橋区大和町12-12
03 - 6784 - 7675